

4. 課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

<農学部デザイン農学科> (認定課程：高一種免(農業))

(1) 各段階における到達目標

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 前期 | 一社会人として常識的な考えや活動が遂行できる基礎を構築するとともに、自分が教員として社会にどのように還元できるかを具体的に想像し、将来の目標を明確にする。さらに、教科科目で農業の歴史および多面性を認識し、農業実習を通じて知識・技術基盤を構築し、基礎的専門科目の学修を通じて、生活環境、社会環境、自然環境の関係性等の幅広い教養的知識を身に着ける。 入学ガイダンス時に教職課程関連資料配布及び説明、4月教職説明会にて「教職課程履修案内」を配布し、教職課程履修に係る意欲向上を目指す。 |
| | 後期 | 教職課程科目を配置し、教員としての基盤を形成させつつ、「教育」に対して個人の考えでなく、理論の積み重ねと行動力により物事を進める現実を十分に理解させるとともに、該当中心年齢だけでなく、幅広い年齢層、性格、行動の理解、補助できる能力を身に着ける。さらに、自然・生活・社会の各環境の関係性等、幅広い教養的知識を習得する。 履修カルテ配付による指導を実施し、教育者に求められる資質や能力についての確認および理解を目指す。 |
| 2年次 | 前期 | 1年次に続き、教育論をより高度に学び教育者としての理解を深める。さらに、教科科目として農産物利用学、畜産物利用学、食品化学、デザイン農学基礎実験実習・演習等を配置し、理論的な知識を深化させる。さらに、生活デザイン農学、デザイン農学栽培入門等の科目により生物の多面的利用に関する実践的な手法を習得する。これらを通じて、農学領域において利用されている自然科学、社会科学、人文科学的な思考や手法で教育活動を行える基礎的な能力の向上を図る。 現職、元教員による講義、講演会、学校ボランティアに参加することで、教育現場の現状に関する理解を目指す。 |
| | 後期 | 学生に対する具体的な対応能力の向上を目的として各種教育指導論を配置するとともに、生物機能開発、食資源利用、食機能科、生活デザイン、社会デザイン、これらの演習により農の多面的利用に関する知識を深化させる。さらに、社会デザイン農学、生物介在療法学等の社会科学的科目を受講することにより、各地域社会における生活環境の質的改善やコミュニティ醸成のため用いられる農的活動について国内外の事例を学ぶことで課題解決能力を養成し、農業の社会的な意義や役割について理解する。 |
| 3年次 | 前期 | 教育専門性を高めるとともに、多様な学生に対して人としての考えや行動を伝える能力向上を目指す。さらに、2年次までに習得した知識を基に、世界各国で急速に発展しているバイオミミクリーの技術、医療・福祉分野との連携など、地域の経済や社会を活性化するための先駆的事例を多角的に学び、教育における実践的な手法に関する能力を獲得することで、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を身に付けさせる指導法を育成する。教育実習指導の充実により、教育指導案の作成等、具体的な授業運営、校務分掌についての理解を目指す。 |
| | 後期 | 農業に関する専門的知識・技術の修得に加え、専門高校における職業指導の役割と指導法を学び、専門分野を確立するためのスキルと知識を修得させる。農畜産物の加工・利用、食品の機能や特性と品質などの解析、食の利用法を探る技術、生物の持つ機能や生産物の利用、農産物や製品の流通、生物を活用した人の心身の健康への貢献などの基礎知識を習得させる。 教育実習などを見据えて、農業高校教員の講義や講演会、各種ガイダンスを用意し、農業におけるスペシャリストとしての専門性の基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせる指導法を育成する。 |
| 4年次 | 前期 | 教育実習に参加し、教職現場を体験するとともに教員として必要な資質を習得する。適宜、現場教員と教職課程教員や事務員による的確なサポートを行い、学生にフィードバックすることで、不足している知識や技能等を補う。さらに、「卒業論文」のための実験を開始し、その過程で理解力、調査能力、計画能力、実験能力(実行力)、考察力など各種能力の向上に努める。 |
| | 後期 | 4年次前期に続き卒論研究を遂行し、地域における課題とその解決方法を学術的に考究し「論文」として取りまとめるための文章表現力、研究成果を発表し討議するためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける。教職課程におけるこれまでの学びの集大成を行うとともに、農業科教員に求められる資質と能力に必要な科学的に探究する能力と態度を育成する。そして、農業に関する課題を見付け、自分自身や社会のものとして解決する態度と身に付けた知識と技術を活用する指導法の修得を目指す。 |